

2025年4月13（日）第二礼拝「主への過越の祭り」出エジプト 12章 1～14節

イスラエルは四百三十年の奴隷の生活が終わり、約束の地、カナンに出発しました。神様は「この日は、…記念すべき日となる。…これを主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠のおきてとしてこれを祝わなければならない。（出エジプト 12：14）」と言われました。「主への祭り」はモエディム(神様の時)と言い、神様が人間を救おうとして決められた時、季節です。その日を始まりとして、代々に祝うように言われています。

第一番目、救いのはじまりです。神様は、イスラエルの民が出エジプトしたその月を月のはじまりとし、祝うように言われました。私たちにとって、過越の祭りとは「救い」です。私たちが救われた日、新しく生まれた日であり、救いのはじまりです。過越の祭りで捧げられた傷のない一歳の雄羊とは、私たちの罪の身代わりとなった、罪のない小羊イエス・キリストを意味します。イスラエルの民はその月の十日に傷のない一歳の雄羊を用意し、十四日まで見守り、その夕暮れにほふりました。イエス様は過越の祭りの夕暮れ（午後三時）に息を引き取られました。罪のない神様が人間となってこの地上に来られ、私たちの罪を全て背負い、十字架にかかって死んでくださいました。それによって、私たちは救われたのです。

第二番目、過越の意味です。一歳の傷のない小羊の血が門柱とかもいにつけられ、その家の中にいる人は皆、救われ守られました。その血を見て、神の審判(滅びのわざわい)は通り過ぎたのです。「あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。」(出エジプト 12：13) この小羊の血、イエス様の血はとても重要です。サタンは昼夜、私たちを責めたて、殺そうと叫び続けますが、イエス様の血は、「審判は終わった。完了した（テテレスタイ）。」と叫ばれ、私たちを救い、滅びから守ってくださいます。私たちもまた、イエス様の血により罪があがなわれたことを主張し続けましょう。そして、私たちの家の門柱とかもいに、信仰によってイエス様の血をつけましょう。「私と私の家の罪、病、呪い、恐れ、絶望よ。イエス様の血潮によって消え去れ。」と叫ぶ時、死をもたらすものは過ぎ去り、主によって勝利することができるのです。また、イエス様の血をもって祈る時、至聖所に入り、神様から愛と赦しを受け、祝福されるのです。

第三番目、火で焼いた羊を食べることです。これは信仰生活です。過越の祭りでは、傷のない一歳の雄の小羊を火で焼いて、種なしパンと苦菜を沿えて食べられます。それは、主の苦しみや愛を覚え、感謝する時となります。罪を犯して死ぬはずだった私たちの代わりに、永遠の地獄の火をイエス様が全て受けてくださり、灰となりました。イエス様は永遠の滅びの審判を受けてくださり、私たちは罪を赦されました。この過越のいけにえは急いで食べるように言われています。それは、御言葉(福音)を聞いてイエス様を早く信じること、「救い」を意味します。イエス様が空中で再臨され、私たちが天に引き上げられるその時まで、私たちはこの救いを永遠に祝う(礼拝する)のです。アーメン！